

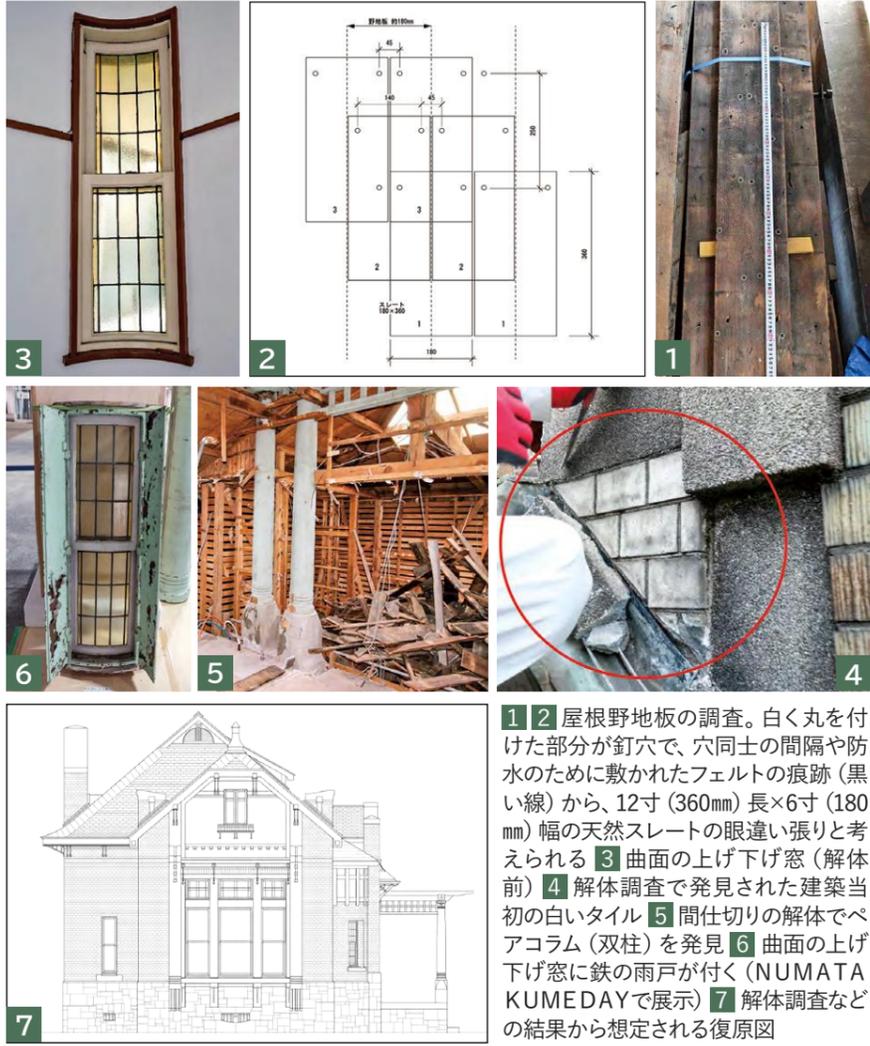
＼PICK UP／

貴重なコンクリート造
大正初期の床下基礎

大正時代初期に、建築にコンクリートを使った個人住宅は、非常に珍しいといわれています。コンクリート柱による高床式で、柱の直径は約50センチ、高さ約2メートル。柱中央部は樽にコンクリートを流し込んでいるような形状が見られ、変わった造りにも注目です



写真上) 解体時の基礎 中) NUMATA KUMEDAYで展示 下) 柱のデッサン



1 2 屋根野地板の調査。白く丸を付けた部分が釘穴で、穴同士の間隔や防水のために敷かれたフェルトの痕跡(黒い線)から、12寸(360mm)長×6寸(180mm)幅の天然スレートの眼違い張りと考えられる 3 曲面の上げ下げ窓(解体前) 4 解体調査で発見された建築当初の白いタイル 5 間仕切りの解体でペアコラム(双柱)を発見 6 曲面の上げ下げ窓に鉄の雨戸が付く(NUMATA KUMEDAYで展示) 7 解体調査などの結果から想定される復原図



編集者で画文家の宮沢洋さんがブランディングした久米邸のイラスト



上) 解体前の久米邸 下) 久米民之助翁の肖像。「沼田公園生みの親」と沼田かるたの読み札として親しまれる

特集 旧久米邸洋館中間報告

洋館移築で地域活性化
大正ロマンエリアに復元

市はおとし9月、本市名誉市民で沼田公園を整備した久米民之助翁の旧久米邸洋館を東京都渋谷区から移築を決めました。上之町の文化財建造物群の大正ロマンエリアの一角に移築し、来年度末の完成を予定しています。進捗状況や活用方法についてお知らせします。
問合せ 文化財保護課文化財保護係 ☎内線2601

大正ロマンエリアを散策しよう

上州沼田武将隊が解説する動画もチェック!

大正の情緒残す コンサートなどで活用
旧日本基督教団沼田教会記念会堂



大正3年(1914)に生糸貿易を行っていた星野家の星野光多(牧師)・星野あい(津田塾大学長・沼田市名誉市民)らによって建築され、平成10年4月21日に登録有形文化財になりました。大正期の洋風建築で、外壁の下見板、縦長の上下窓、急勾配の屋根などに特徴がよく現れています。
市は平成28年6月に寄贈を受け、解体修理を行い、沼田公園から現在地に移築しました。

景観資源を生かしたライトアップ
旧土岐家住宅洋館



大正13年(1923)、土岐章子爵が建造。平成2年、市は土岐家より寄贈後、沼田公園へ移築し、おとし6月、上之町に再移築しました。今冬、初めてライトアップしました。

金融史を物語る市内唯一の文化財
旧沼田貯蓄銀行



明治41年(1908)頃の建造。明治・大正期の擬洋風建造物で、木造2階建寄棟造葺瓦葺き。市内唯一の利根・沼田の金融史を物語る貴重な文化財です。

移築は東京渋谷の住民や専門家でつくる「代々木上原旧久米邸洋館保存プロジェクト」の働きかけなどを通して進め、建物解体時の調査を通して、使用可能な建築部材を沼田へ運びました。調査内容は昨年4月にイベントで報告しています。
旧久米邸洋館について
洋館は久米邸に付随した応接間で、明治末から大正初頭頃の建築と推定。歴史的建造物としての評価もあります。敷地は約2万坪と広大で「代々木御殿」と呼ばれていました。
その後、洋館の所有は紀州徳川家から鉄道会社に移り、住宅地として区画・分譲されました。洋館は内外装共に改修が行われていますが、基本的に当初の形態を残しています。
調査からたどる昔の姿
解体調査で確認された痕跡や古写真、建築部材から約110年前の姿が明らかになってきました。外壁はごくわずかに白いタイルが残っていたことが分かり、形状や成分から建築当初のものと判断しました。屋根はスレート葺きであることも判明し、復原図を作成しました。

活用方針を協議
今後の保存と活用方針を決めるため、建築や文化財関連の有識者が構成する旧久米邸洋館保存活用方針策定検討委員会を設置。議論内容を基に調査方法を考え、設計に反映しました。
着工は今月。建築部材は再び使えるように補修しながら復元し、来年度末の完成を目指します。進捗状況などの報告会なども予定しています。
大正ロマンエリアの活性化
現在、洋館が移築される大正の情緒あふれるエリア(上之町)には、県指定重要文化財「旧沼田貯蓄銀行」、国登録有形文化財の登録を受けた2つの建造物「旧土岐家住宅洋館」「旧日本基督教団沼田教会記念会堂」や「生方記念文庫」が並びます。一般公開のほか、音楽団体への貸し出しやコンサート会場としての利用、バス旅行の見学やはかまで町歩きを楽しむイベントでもにぎわっています。
大正ロマンをイメージしてデザインされた根付

